

## 原子力発電のない国へ

こんなことが私たちの社会でおこるとは思いもかけないことだった2011年の大震災は、自然の脅威とともに、自然とは真っ向から異なる、人類がつくりあげてきたシステムの脅威をもつきつけられる出来事でした。日頃私たちが当たり前のこととして享受してきた電気が、火力や水力発電の他に、日本に54機もある原子力発電によってつくられていたということを、私は恥ずかしながら知りませんでした。一つの原子力発電所の破壊が、取り返しのつかない健康被害を人々と地球にもたらすこと、そして、原子力発電によって作り出される核廃棄物が、処理方法がないまま地球上に積み上げられていることも、初めて知りました。

災害や事故がなくとも、処理できない核廃棄物が、今後どれだけ人々と地球の健康に被害をもたらすことでしょうか。 どうしてこれが、原子力の平和利用といえるのでしょうか。

ある医療技術をその人にとりいれるのかどうかを、医療技術の進歩がもたらすプラスの部分と、一方、その医療技術もたらすマイナスの部分を経々の角度からはかりにかけて、決めていくということを日常的に行っていくのが医療の現場です。そうした視点で医療職として、原子力発電のプラスの部分は何かと冷静にとらえようとしても、私にはなんら納得できるプラスの要因を見つけることはできません。

制御できない核分裂から得られる電気など、なくても人は生きていける。制御できない核分裂で地球の命は奪われる。こんな明らかなことをそうでないと言い、原子力発電推進の必要性を言う人々によって導かれる経済優先の社会ではなく、つつましくとも豊かな社会について考える糸口となる通信にしていきたいと考えています。